

私の一文字



ランサーズ 取締役社長 CEO
秋好 陽介

2019年度より第1期ノミネートメンバー、
2021年4月経済同友会入会、21年度観光
再生戦略委員会副委員長。



「美しく」生きる

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第1期ノミネートメンバーだった会員経営者の皆さまにお話を伺うシリーズの5回目は、秋好陽介ランサーズ取締役社長CEOにご登場いただきました。

岡西 「美」の上の部分は動物の「羊」、下は「大きい」です。羊は古来より神事の献物として供えられ、大きな羊はとても価値が高く、神様に供えられる羊は美しく完全であることが求められたことから、大と羊が「美」になったといわれます。秋好さんの内面から出る執着のない美しさを表現したくて細い線、力強い線を混在させながら書かせていただきました。この字を選ばれた理由をお聞かせください。

秋好 4、5年くらい前に売り上げが落ちるなど会社の調子が悪い時期がありました。経営者としてできることは全部やりましたが、うまくいかないとき、自分自身の行動を正さないとアウトプットもうまくいかないという仮説を立て、それを検証しようとトレーニングジムに行き、12%だった体脂肪率を3~4%まで落としました。

また、午前5時に早起きする、しっかり身なりを整える、相手に伝えられるような話し方をするなど仕事以外の面を整えた結果、会社経営もV字回復しました。私という人間が整うと会社にも段階的に波及していくという成功体験を得て、「美しく生きる」を自分のライフワークに掲げたので選びました。

岡西 経済同友会で「美」を選ばれた方は今までいらっしゃいませんでした。秋好さんは創業当初から今の時代を予想していたと思うぐらい、時代にぴったりのビジネスモデルを運営されています。このような時代が来るとの信念をお持ちだったのでしょうか。

秋好 まったく思っていませんでした。大学生時代にフリーランスとして、オンラインで大阪にしながら東京のクライアントと1回も会わずに数千万円規模のビジネスができ、インターネットはすごいという原体験を得ました。しかし、その後入った大企業では法人でないと発注できず、自分の「楽しい」、「すごい」という感情を味わえた学生時代のようなことは、会社員では無理だと諦めがありました。

個人にとっては時間と場所にとらわれず、企業は本当に優秀な人に直接発注することでより安くできれば、皆ハッピーになると考えたところから起業しました。まさか、このような世の中になるとは思ってもみませんでしたが、「なった方がいい」とは考えていました。

岡西 経済同友会への期待や今後の抱負は。

秋好 皆さん、会社の利益代表ではなく日本経済のためにコミットされています。私も観光再生戦略委員会で副委員長をさせていただき、本業への気付きがあります。50、60代男性経営者だけでなく30、40代の男性や女性も含め、いろいろな方が交わることで多様なアイデアが出てきます。経済同友会もそういう方向性を強められればいいと思います。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。